



元兎返
此ノ兎堂の納り今ハ荒はれ今ノ禱 至行所
兎托由末ノノ記ト

権現森

一ノ名鬼森トノ唱ノ乃ノ東北方ノノ名ノ是ノ月山
権現遊戯ト是地ナリ卯月三日八月八日二季此奈
依別高修納代参拜ト初基此ノ日ハ清戸開ト早ク
聖ノ院ありて別高修納齋意ト八月八日ハ經堂
院ナク右此餐意有ナリトノ名ノ是ノ月山
室此ノ下ト下トノ規式ナリトノ今ノ此下ノ名
ノ礎ナリト名トノ鬼森ト名トノ是ノ月山此

たふふのわづかひを傳へしり遊甲をさ荒はれ地を
堂にたぬくは戸開因にたぬ記あり

二松沈

月山権現離れれ舊の鬼毒より滴るぬる月此二
を伝わさざりわづかひを傳へしり遊甲をさ荒はれ地を
とい懸隔する美景よりてわけく月此をさるれ
奥此より満くまゝ洞庭に形勢を伝へしり
おしこれゆゑま下り流に經堂は此境内より
湛たり

名月や煙る^這いゆくふれと嵐雪

迷懐成由せん^{つら}お鴨^{つら}呂結

兒堂

児童の本像あり奥列信夫那友崎庄カ何系れ
嫡子友に丸しいつるつら細年より母にこれ羽黒
山夏一阿闍梨よりはくく佛教より身とゆづり
容顔やんおりり美麗るりこれ山中の伏傳等
傳い奪りつた右より川合果らるるつら頭
空野より埋え幣ハ此より物たるるつら
無縁回向れ職われつら此堂は遠立一具なるれ
作善は勅夫本れり刀笈授けいづる信より
姫よりこれ児とびりつらつら明主は慈教

しりいばれど難なりりたるうー音曲をたのむくをのみ
仰りませるしうやん事乃にうりうり此世本よんり

児乃長哥

東水

陸奥の。 志の我れ世かこらまゆりよほき 後高を
み繁乃 年々うりうりたらあ のちれたん 羞れ返の
あー世成おしの世の心でう小かきあうつ 昔うわ
あるとまてううわねは月影 影さうん 心の母ハ
あもるまもんるの世 けうのた とまれま母の 神さうり
罪さたれとほらううううううううううに 穢さう
は仰乃 ぼき世ひな 福舟乃 かうて沈む 母は方の
あうううううううううううううううううううううう

いんらうーんさだこれうあしーちとあまの クあ
そけいけいさこれ山やうど事よ 奥山や ちこれ移
玉がこま 乃乃人こまうううううううううううの 理あり
石の跡う ぶ乃香をんしううい あられま

反り

あうううううううううううううううううううううう

水軒

いけるた月の中滅れんそせ成少るるれまとううれ
本母身 神庭ハ何れも 毒うがに 浮生
痛リく 蟻れけうううううううううううう 呂丸
あういほれ男がうんじいんさうう 峯月



輪回多し腐州行しきり法の也 東諷
 病しこれ別世界なり松じり 呂茹

經塚杉

庚申堂に傍しし何し枝系養りしとて周圍之抱へし
 之ぬそれのみ好ま山と妙達しゆえしと執行あり古
 傳曰法師恒誦法華于法有年一日手持經卷
 先氣矣便往龍王宮龍王見妙達下席作禮而曰師
 命画非此來今為師說圖浮提作業能憶持而還本
 土勸善識惡廣行利生因說四象罪狀妙達經七日
 獲生也即回六十列納書寫法華二百部創羽書
 及荒澤於經堂一字彫刻一千本塔邊設一切象生

秘して未為れ務果成悟く先本迹二種此秘開
開く常在靈山此月言く郎なり

序緒く印此公も乃れ誕生會了枝

沈後堂

本より舊記く推古帝即位元癸丑年四月八日出
現しより一柱く平将門娘如藏尼此護念此平
なりくし中修験得蓋れあつたり事教中
信仰此人感得と心あつたり修験入峯此に堂乃
故より拜し是別胎内之行はふして男子は母此胎
内より宿りしは胎内在在所謂母胎即堂也堂中男
子遍地藏そや此堂中より山登此の信
まじり事より記せるのぶくこれ堂と云ふ中
我是再興之

常火堂

古縁起曰能除太子大目如來と頂禮しを心して
登嶺の初合向ふして生身乃る像と拜したまふ
は身より中あましく太子此膚は燃けは煩悩甚れ之毒
を消滅しよりハ中より別昇天しその像は膚乃中ら
則宝珠となりみれ此心は隨處く所作せしもの
まじり此温泉の五味を涌出するは信く湯殿山と
名はあつる其時太子は味はあらくはくより
身は殿別初一期の名別は成月は群生利慶

のたふふ宝珠(成蓋)は上納ありて千時大聖の王の九臂
と切らるるなりと法成出—ありてこれ成なるなり
よ—り萬世不退乃常火と成りて—山往南乃行者此
ち成りて行世成りて—何の成りて—の獨利なり
臂切不動なり—なり—今—成りて—秘—行往
此証人成りて—なり—成りて—なり
又木板不動尊—なり—ありて慈覺大師高山成りて
—成りて—木板ありて—大行已滿の
砌の王成りて—なり—なり—木板—なり
新成りて—木板不動尊—なり—利益巨多なり—なり
なり—大聖成りて—なり—なり—なり—なり

靈佛—なり—秘—なり—慈覺大師成りて—なり—大師
—なり—なり—年往歲—なり—難化れ所作—なり—
定先か—なり—なり—
常火と切火—なり—なり—なり—開基以
來—なり—儀式毎年大晦—なり—驗競—なり—禁灯護—
大弘明乃雌雄—なり—なり—附新成りて—なり—鑽草勝火—
年中行事の—なり—なり—山未宿乃行—なり—
諸國散在れ玉家修驗祓道神主依—なり—志—なり—
免許—なり—なり—葬送不淨—なり—なり—鑽草—
—なり—なり—なり—常—なり—なり—退の—なり—
—なり—なり—なり—なり—なり—

川らあけどみ葉と漏るるも大峯月
常念佛乃蓮社ありて常火堂
六月の布子や清見寺火堂あり 風和

獨鉢清水

乃火水も中作りて大堂に傍りてありて清淨の
冷泉奇特なりてなり

野口

蓋はよりゆる徑より女人禁制法界にありて
常念佛乃蓮社ありて每皇壽如來觀音勢至の三
軀いつれも大佛形ありて元禄年中武陵に信者
是後寺納りて聖之院先住侶澄心海海より遠く

此の成結ありて一字成造建一累世不
忘の称名ありて空刹乃びけりてなり

好望月嶺待織阿乘興吟遊吟比丘 實傳

野口雖邊思不野羽山舊是隆王州

山杉ありての字教くすなりて 不角

ほくさひ北小油酌る 鳥野井

雲起る岫より蘭の障りて 呂茹

七曲の川前響くはる風森々しきる下成るる平
向へゆる野徑ありける所ありてなり

物見山

念佛堂より南よりありてありて是より登りて



庄内の城門市野目下よりあるあり
 この下は橋のしりあり谷尻備と杉ヶ森又ゆるこの
 寺らそのり南滝山禪定寺として二百坊は後願
 一ルル一急管大師いふよむのく寂勝會成初
 一少く穿この高才静安江中淮頂の清室成道
 一毎歳終くしやう下傳よるくしり来迎に
 一今よむのく聖衆来迎に成辨とくしり
 ありふれあの下は麝香は修行坂も坂とくしり
 龍うしとくしり
 南 龍妻成終てむあり 一 東水
 一 柳屋道 一 石之塔 一 持籠池 一 東水
 一 御堂 一 柳屋道 一 石之塔 一 持籠池 一 東水



野、口、及、る、く、言、知、鳥、坂、傘、骨、焼、ヶ、懐、牧、坂、駒、王、子
 海、道、坂、り、い、然、れ、ハ、泉、江、と、い、ハ、溪、流、み、く、登、山、嶺
 乃、代、乖、離、の、小、屋、あ、り、是、より、新、客、江、と、い、ハ、水、成、さ、く
 右、よ、水、飲、江、と、い、ハ、洞、水、あ、り、其、の、下、流、ハ、坂、川、の、流、し
 此、傍、堤、頭、と、い、ハ、野、より、蟹、ヶ、江、へ、せ、た、い、わ、く、二
 十、六、家、の、田、地、れ、用、い、の、中、と、い、ハ、先、賢、主、天、岩、師、附、與
 と、い、わ、く、り、り、の、客、江、と、い、ハ、十、町、あ、り、此、より、修、験、小、山
 山、の、洞、の、大、佛、窟、空、藏、菩薩、壇、の、堂、宇、に、あ、り、ま、す。

三、結、江

小、山、山、より、凡、れ、溪、間、を、り、修、験、入、家、れ、け、あ、り、と、い、わ、く、
 三、結、江、と、い、ハ、名、ば、ら、く、と、い、ハ、胎、内、修、行、の、秘、を、と、い、わ、く、ま、す。

三山下
山とら宿として八月卯の夜にこの宿に難行の中の極難夜修と見たり女人非界乃此

裏花や清水乃此れ自然乃 鶴里

郭公鉈タタふと海 移り 郭野州佐野 其道

明星の云々所々為りてうの山 峯月

そらとらにいふれ私々下り大女 呂茹

皇子石

それうゝ能除太子登嶺此石乃まがく魔魅行て
女躰よりふれ 障碍とんとせし怨み太子か持あり事
際伏しうゝふり白き石あり又中し古

巫女諸界依地 山へ登りし中 小腰脚あり
くく一門乃靈石しかりくくより神子石も云はれん

強清水

坂れた乃石間より湧ゆる冷水なり道者登山此れ
くく笹葺の系ヤ店小原成かけゆる 鄰水清徹りれい
索麩とひちりくく往請乃人々すむ苟く突天の
喘氣成作して登山の脚跟やと強くくく
是より垣成はれん 符カギ籠コモ沈目れ下りて 石此石
石よ記く魔障をなげ又いふくく地形と云はれ
姫ナニヤれ太子あれ池く 符カギ籠コモく 示りりかす

小は物ごとく唱へ父子の孝恩をわづらふ事あるは
大と仰ふい中との意に通ひしと傳へん歟

大汗や古く日々四季の身づくハ 立宇

御田ヶ原 合流あり一里余

合流あり小笠原にあり此川系と云ふ事あり
小笠原塔と組く有無兩説と回向とあり
道老且過此小屋並に岩頭より弥陀如來の洞
傍に安置しあり故に俗呼ぶ弥陀ヶ原といふ舊
記に載る不に御田ヶ原なり日本書紀曰天照太神在
於天上日聞葦原中國有保食神宜爾月夜見尊就
候之月夜見尊受勅而降已到于保食神許保食

神乃廻首嚮國則自口出飯を以其稻種殖于天
狹田及長田又曰日神之御田有二處焉號曰天安田天
平田天邑并田此皆良田といふ所より依て稻神
乃國社より御田極る一古式なりかたがはの丘
山小と神田成りしに依りて神小
乃舊例れつらる事と感得し傳へ

細流やまゝみられ菅乃必 且松

竹枝や外猪れ牙もなきが糸 武仙

補陀洛道

この系より二十町をくぬ深谷へ下りて先づ補陀洛
代垢離れ小屋あり劔ヶ峯三學石高間原洛道に

布川石浪路石慈覺大師護廣壇三寶荒神 太子
 御年掛松なりとて拜所敷ありとて逐一記し
 かゝる補陀洛の本尊とて彌陀藥師観音の三尊なり
 敷十丈とて聳ゆる峽山名之曰無名なり是州之
 形なり震旦補陀山とて観音字彌陀奉金剛字
 あつとて山々符節と合せとて 補陀落迦地
 翻海嶋又云小白華西域記云有阻落迦南海有石天
 宮觀自在菩薩遊舍とて淨土本縁經とて観るは
 因縁説ありとて大士偈言我念無量劫在於絶嶋側
 心時因縁常在補陀落迦上末世も縁れ大士宮より
 行りてこれ群觀成度脱とて本事いばれり此鏡
 蓋しこれゆへんは雷場なり又十回又町下門
 濱しりあり辨才天擁護乃比なりとて清冷
 なる湖水は流るる雲収風徐りては小の微妙
 莊嚴の弘世に形は感見とて一時にかりされは屠
 隆り言り波上笑樂盡著花香船蕩將渡輕沙珠林
 只在琉璃界半壁紅光見海霞賦とて此境を充
 て唯し語路成物とてひりり童蒙のほむら
 とてたるとての妙成とて人たりあや風縁れり
 うらとてされも唯し篤實成本ありとて實り記
 物なりや弘世は舟帆とてけり流地の淨きとて今
 なるの流ありとて流りてとて公や流路れ石なり

是より濁江に不動を成拜し空に無量壽を成す
佛水沈き登る。

念佛と思ふ石を雪のふれ山風
雪をふれかゝるれ舟のや岩つど呂茹

佛水沈

三界乃大導師出胎の日小判く八大竜王身露成り
それ頂成灌ぎしりして下界乃悪習成りしりして
わすれ雲泥し妙水成清く赤向れ凡俗成清光ふ
佛水沈成俗し物といけし唱へ言ふし石を沈下
小屋あり

竹の子は海に形するやしらぬ且松

行者度

上件く略識せしりし後行者志慕能除太子跡
登嶺しりし推現老翁し現れ答ふし公向し
押しし路ふし末世は老翁しりし行者答ふし
三七日行法しりし叶しし帰るしりし太子は
受け常世は月ひてみん成掛て登りし路へ
事相成就しりし石向し行者は足踏しりし今
了故しし山成行者度りし名づけし今世
道者し此例とてし罪障懺悔あり
あしし覆藏しりし登山成就しりし

百今草のや二層目には欲心羽黒東諷

来途はわらわらと過るれは為家小 幸信
仰りてはわらわらと不食 甚さなる 此紅

風穴

改れは名りて嚴穴幾下もろくどありたて病風を
吹出さるるに烈しき九夏の天小し玄冬に寒凜成
終る一ゆる日天窟將軍窟堅法臺りしを拜せり
將軍窟ら上件り識り源義家逆徒追討れ時
一凶徒敗北して軍兵ふれ洞中へ窟居りし跡
こく如今一甲冑矢根刀釜等朽ぬるく存在
より日天窟は月を尊日神と亞沙ひく天れし穴
より月を尊日神と亞沙ひく天れし穴
了神とより神とよりや堅法臺俗に堅法臺と
しそんくゆる佛法王法堅剛不壞れ理り則てかく
名つけゆるとや

岩穴乃らびりうらむらわめく光る 銀葉

窟海せむや雪成塚りしを林海と 東籬

月山 行者庚子一里

一れ嶽とろく御室れ木戸とろく不動毘沙門
乃守護りし始りなり内り十三佛とありしと且過
十三軒れ小屋は是れ唯あり

月山権現之乘跡者伊勢諾伊勢母二神立於天
橋之上其計生大八洲國及山川草木次生同神又生

月神此月弓神是也又月夜見尊月讀尊皆是同
躰異名也一書曰伊弉諾尊右手持白銅鏡則有
出之神是謂月弓尊實性明麗故使照臨天地
此說月山來由的當矣

延喜式神名帳月山大物忌祭料福千束又曰禁中名

神祭二百八十五座内出羽國二座飽海郡月山神社

大物忌名神又曰飽海郡三座月山神社名神大物忌神

社名神小物忌神社名神是等乃總成者往音

出羽北宗社八月山名海羽是也

大物忌神社名神是等乃總成者往音

事勿生疑 御祭記十二月十四日十五日緣日

山緣日七月羽黑山緣日十月廿八日休年八月廿八日也

神緣相生之社後神也

之鳥之出羽北宗之入之月山鳥海乃兩嶽國中

之奇峯截然一之屹立之山の祭祀年中約

事等後優倭女塞恙覺大師乃遺風今之草成麻

て符合之介厘之善之故之古傳之月山鳥

海兩所大権現之唱之

度之小之舊例年之小齊之

暮禮山月山寺之所以之夜陰夜司之神社

之尊來迎乃感應之黃昏之乃之礼拜之

本地石來迎壇之あり上付之識之行基菩薩之

祝言秘記曰補陀落無量壽佛放金色光照山林十方
世界為淨土山巔阿彌陀如來濟渡苦界教主三身圓滿
覺王也くく之けく此如事ら六八乃悲形及後一若
輪界乃象生及度服をんと鎮一醉とめぐ一指を
彈しての所深山幽谷小くこれ利を及旅理即但
忘乃頂く究竟圓滿乃來迎と現く久し朝雲終成
埋く久し地く解くをく一及く偏く臺俗と
離れまき一報と及感と嵩岳岳松石南を物とく
他山れ生植く多く一に雷とくもれくしとく
南天及老わく一とれく一船石く一又余の四くあり
四季れ連登月及都何く物くわれく名所及
山一名犂牛山くも唱くをれ謂ゆく山の形牛が積
たく物く一似く四時雪消果と珠をと帶く一とま
くまの牛ヶ首しと及く亦又をくありある名なり
羽黒別為職入院経目れりく月山清室前清戸帳
并八股唐角五股唐角以上一頭分と物く是と代
之故實也

此山れ名の白雪く分て入中入乃物ぐく一と
右れ奇く聖徳太子の法縁と云傳く一能除師登
嶺く一と及師曾れ睦く一とく一とせく一とわく不
けの物一酒田小聖法寺と居く一と蘭舎ありとく
此山へ太子乃れく一と博識れ考及傳の

不置院法印 季吟

山彦よきつゝいづくかゝるこころも
雲れ穿ちて門前はく月 の色蕉
蝦夷ハ音山く了人そと物日新 如蒿
大汗の跡り成をく 月もや由 桃隣
只拂息れ裾より 月乃山 常陽

松葉桂男 髻

浮生

後宵不也人れ 夕陽成りけり 貞佐

夏中より一曰れ山よ釣糸紅樹青岩のり
うらゝとくしゆ 一人れ老翁あり山の
ゆる小羽羽乃比りりの 春をく平よ一聯
と賜り峭壁畫雲此中傍結成螺髻回日

先賢さかしくはくはく 是月山かろ魚
と遙く拜して愚翁の次 不將瓊殿閉
金鎖萬古洞天万古蒼

百工乃 山と深しり 清鏡 立永

木や草より何とあして秋れを 園女

後れ朕ふくくく 月乃山 行人

雪一里海の深まらる 石南公 風水

地よりあゝの怪歌成さるる なにぞ月 吞虹

石室乃 火あり 三月乃月 啓史

異會在山中自喚佛法僧人以靈之
聽者亦罕



来速れ心成

慈恩

月北山へける雲を帯りて心ゆくけし紫乃山

月乃山様よりきりきり音乃海 吉治

雪降るくさね根より月山の山 安心

月山石室よりあそびりくく吟

雷成もくくなる鳴く小屋の白 風水

行飯ヤハラア兼くさね無原乃庵 呂笏

白溪北風成まらけり月越て 梨水

雨若山

月山より西北より西の山へくくくく孤家なりてる氣朝
 りの阿い影をくくくくくくくくくくくくくくくくくく

山の色朦朧として遠逝しんぞわねる又ハ雨を
山もさうり

早乙女一むらさき鳥乃新 東洞
裏作ら鶴よりきき 蛇の音 琴吾

鍛冶屋補

ひとり一人此鍛冶師 劍此佳名あしんぞ成り
此重しあまりききしおきしんぞれが打し
小月山とさうりけし今せしおきり鉄鋪吹草年
強し石此形乃彷彿 とも成ん所の

參州琴母領主

ひらちち月のお輝みふれやさ 岫月
彫れゆ跡をきき 今より水 山夕

し料乃膚いあぞ甲乃字 永結
鏡目也 猿筋のひらちちの句 此紅
稲妻あや相越このむあがり 李山

巻一

磐石成組うらむくみと捨と堤防此蛇筋
かきこころ小等一碇くまらした嵩松嵩橋又
百年州生後うらむ石根より依渡いうらむ鳥
かづら遠か所をき

橋とけく石くあしく河江連繩 幸信
あま涼しもふ神乃行婦人 東雪
流れ目くしんぞぬ羅やまあれ 山風

牛ヶ首

牛ヶ首々々鼻穴此形々々於々々あり々々牧童乃
々々繩通々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

牛ヶ首々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

姥月光

地藏菩薩此相像々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
途河此々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

一世界響水々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々 浮生





湯殿山靈場也從
為秘所自略之

不淨垢離

此溪流ふくもくく此流垢離もくもく心身もよ
ろくくくく護淨もくもく伏此酷暑もく
膚もくもくく堪もくもくく懶惰の心もくもく
もくもくもくもくもくもくもくもく

又此の門冠かん冠かりらげ香薫散 東水

静衣東場

道くくく古先くく草鞋と此くくくくくく
衣持衣等と悉くくくくくくくくくくく
をり是より泰請此くくくくくくくくく
懸命乃財室くくくくくくくくくくくく

かんかり湯志天杖もろくわの正しむらん
虎石乃叢中小往請此萬人のむせむ
禿も杖と打捨もろくわ年くかぬりも捨も孤峯
頂も底も奉侍もろくわ

夏山底もまろくわ又せよひい際 沾洲

合向

水合向世合向もろくわあふり星辰もろくわ水もろくわ
秘水あり右縁起曰昔能除師大日尊辰并もろくわ
らんもろくわ深谷れ十巖と湯れた光景輝くもろくわ草蔬
芳もろくわとろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
容感涙肝もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ

おせんし下向もろくわへ岫岫もろくわありもろくわもろくわ
もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
脚下もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
祥もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
事もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ

足どり乃世人合向也 康のちら由 常陽

劔山

あひもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
雲動もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ
等もろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわもろくわ

五濁亂漫の凡心なるより悪業成るるより人々
かくれり此乃秘所可信可懼

足踏嶮巖手控雲 競々戦々上弥崇 南枝
奔流下見三千界 激浪洪波響大空

心體又字よけくまらしく改り湯殿の靈場成りけり
清涼乃不動なるを廻くす海くこの清涼なるハハ
八千佛なるより月山大峯より十萬八千佛なるより
清涼成流れくる龍泉の酒田に海より出の飯山五味
水なるより入拜ふあり

地獄巔上

若干此地獄あり血池なるを此水朱やして殊陀の名
鏡成唱く此邊は藤作れは底より涌出する水玉高
妙に應じて影一則女人成佛の血盆經に池の中へ
細く如是の山路より孤獨地獄なる佛經なるに
久しに越中此立山相別乃呂根等より作ると皆是
孤獨地獄なり

名くの雪成なるより物此音 立宇

上件の神怨成りけり下向此れは區々なり

湯殿山靈場

権現垂跡大山津見命也或云大己貴命又謂彦火
出見尊也言其中之正意竊初説大山祇神也舊事
記曰伊弉諾尊遠坂所帶十握劔斬遇突智頭為三

段各化為神一段是為雷神一段是為大山祇五段八段
俱化為山祇

本地大日遍照如來也梵謂毘盧遮那

蓋蓋傳曰乙丑年乙丑日法身大日垂跡和光出羽國大
梵字川水上五味藥湯源置居湯殿確現顯給日也
号湯殿山日月寺月山、奥院而三光先照之密場也
故湯殿祝言文出羽國海越三庄玉川上金銀瑠璃之地
月山奥院垂跡和光給

一名應此山、唱、則和光先哲の石所集、載、
了、い、歩、は、運、へ、向、名、年、月、を、か、さ、ひ、て、い、山、
急、さ、り、い、つ、り、か、つ、け、り、心、懐、慕、渴

仰於佛の如文可思可議於其靈場、甚深秘藏、
言語、出、と、へ、り、す、し、後、は、前、小、抄、の、中、
中、と、罪、を、り、其、誓、言、小、か、の、成、り、
事、傳、る、五、色、れ、幣、帛、幾、也、幾、年、あ、れ、を、
あ、り、ん、各、成、理、の、嶺、へ、覆、へ、り、又、腰、
の、行、者、携、り、幣、の、り、長、一、尺、二、寸、十、二、
准、の、表、体、天、れ、七、曜、九、曜、二、十、八、宿、等、
の、七、又、之、室、冠、等、の、殿、行、者、れ、秘、事、
故、不、記、

往詣の街頭ありけり、
人乃情實あり、

三山
六十五
小まへ内もあり故に則坐し警成拂ひて速く
世成思ひさ内との多し又罪障極重此志人と同じ
く並布く來迎の祥雲成拜とねも有りか内不
思議此境よりいさね人いけし内もえさす
却ら誹謗を内人もあしんく首てま人此れ
記すも唯し信厚渴仰の爲り述すは是所謂癡
人面前不可説言なりや

新勅撰

顯仲

此れ山をけさ小世の病から入るといふよりぬき袖

新千載

有忠

此れ山入てくく内なるといふを定てこそ思ひ知ぬれ

夫木集

家教

こつれぬ乃茲ればりて布てく山の名成りま

新葉集

文貞

人やこれぬといさぬ世の山我心より内しを失つ

初れ志しりてい

小河氏
元清

末はわさ方とくすま我此山に志内袖とるや

牙納

淳生

後人の内も小びすま其法中内なる内志れ

赤箱之列

内しぬはぬりや守はれ芭蕉

日長句いやくく林内室とく内惟然

湯原山不滅乃絲凡其あなり 三千風
山彦也 海の成おむ人の夢 桃隣
後物して世は忘れり奥の院 曾良
新瑞し後々汗う門本始年 風水

遥拜

佛よま信鳥瓜づん成よ此山 岫月
はら水さうのそ百千さう鳴かさんさう
いあふと羽黒の鳥阿し口わくしそあし
沢谷ツクヤミの山踏まはありさ海い久しこれ花
えん成ふり立あうこの帝教の地成力
是してかしの本れは成月山の劔と他

て荒沢の何う荒う色物の多としむと
むす文字まうし海柄抄う大日如來の
老成うげく

白あれ天窓千らり 海殿行 調和
雲めくして海若後まり 夏氷 介我

霊場の温泉と御アガ開カ伽カとさり

逆サカシ盤イタ湯ユ灌カン佛ブツ

浮生

夏瘦れ桑活しぐるや 海殿山 浦夕
雲旁り隔られり古後好に 竹人
梵天と今ハ散りん宮乃奥 序令
他人こそ山ハ薄氷 親北膝 節士

過一のり予の愚又この北信山の神徳成崇先緒
久保一のり予の愚又この北信山の神徳成崇先緒
おく碧港の底よりと深し予と年比れ神恩成
ゆれど世事にや向成はるもせせとく神恩成
報せんきり小永く此信田成寄附せり先緒
と吟しと信山成遠祥一を信 常州小河

稲北極の極一續け之の山 今泉氏 達長

ふれ外信田一反寄附し江戸萱湯町神原
重之務存ると思ふ信中根山之郎酒井市右衛門
又一反下総國香取郡稲田村加藤理左衛門河
色村及川小之郎同苗七郎 信門常列水戸

領業谷村証に源五右衛門信宣町町源五右衛門
右信田寄附報謝れ為り永く羽志山よ於
三山信録日毎月二度宛御信成まけまをり深
施主子孫繁昌如意満足乃祈新よ忘勤ゆ
ま

亡人 トコ 一 トコ 年 トコ 州 トコ や トコ 落 トコ たり 峰月
忘れ山 トコ 又 トコ 下 トコ け トコ たり トコ 一 トコ 袖 トコ 乃 トコ 浦 トコ 了 トコ 枝
梵天 トコ とも トコ 海 トコ 系 トコ の トコ 及 トコ れ トコ 本 トコ の トコ 系 トコ 小 トコ 雄王
目小 トコ 罪 トコ 成 トコ 晒 トコ 一 トコ ち トコ せ トコ り トコ ゆ トコ の トコ 山 トコ 武仙
梵 トコ 一 トコ 小 トコ ち トコ ち トコ 持 トコ ち トコ ゆ トコ 一 トコ け トコ 一 トコ 物 トコ 其翠
罪科 トコ の トコ 釋 トコ 一 トコ 成 トコ 一 トコ 忘 トコ の トコ 一 トコ 山 トコ 山風

感後一坐銷したる一忘れ山 柳也

松林美の入そひよりけ袖 武州高尾 秀正

七息をいふ七口 東水

神狩を男小なりて 久武母

目張り一人目くらん 桂奇

夏瘦や身とあがり 一非

何差所をたせ 素石

岩根根 此紅

呂船 此紅

當山れ往詣乃七口あり 羽黒 岩根 漢 及 漢

本道寺 臂形 注連寺 大日坊

飛石より石なりし 志津村

水又高清水し 本道寺

清川根 鳥川 憾悔 岩根

は日月寺へ下向

或は月山の清室れ横道 臂形 阿畔院

又清江 注連寺 大日坊

大綱 注連寺

三山 風水

小雪の飛石 等柳

芭 等般

琴 東水

感涙乃袖と揮くしはけりしる 梅州

阿鍔呼れ二字や家の雪月^{江戸}不 栄賢

よよ振る衣の玉や雪はよめて 栄順

家^{江戸}の茶^{江戸}菓^{江戸}洋^{江戸}の紋多 李山

海^{江戸}の波^{江戸}只^{江戸}い^{江戸}り^{江戸}く

けづくし雪涼しこいりる由 支考

いふ^{江戸}^{江戸}得^{江戸}得^{江戸}山^{江戸}く^{江戸}河^{江戸}雨^{江戸}の^{江戸} 宗因

文成と筆とを几とく^{江戸}抛ら刺備て燭^{江戸}成^{江戸}定^{江戸}刺^{江戸}

移^{江戸}一^{江戸}三^{江戸}山^{江戸}靈^{江戸}用^{江戸}の^{江戸}貴^{江戸}成^{江戸}に^{江戸}余^{江戸}の^{江戸}信^{江戸}舊^{江戸}跡^{江戸}の^{江戸}突^{江戸}

午^{江戸}羊^{江戸}の^{江戸}眼^{江戸}中^{江戸}して^{江戸}ま^{江戸}る^{江戸}も^{江戸}誌^{江戸}一^{江戸}信^{江戸}ん^{江戸}事^{江戸}神^{江戸}意^{江戸}

えん^{江戸}の中^{江戸}短^{江戸}才^{江戸}始^{江戸}後^{江戸}悔^{江戸}悔^{江戸}れ^{江戸}ど^{江戸}愚^{江戸}生^{江戸}の^{江戸}早^{江戸}は^{江戸}は^{江戸}ん^{江戸}と

う^{江戸}形^{江戸}一^{江戸}云^{江戸}の^{江戸}し^{江戸}は^{江戸}の^{江戸}より^{江戸}佛^{江戸}神^{江戸}擁^{江戸}護^{江戸}の^{江戸}眸^{江戸}も^{江戸}形^{江戸}と

又^{江戸}具^{江戸}眼^{江戸}高^{江戸}標^{江戸}れ^{江戸}知^{江戸}し^{江戸}も^{江戸}り^{江戸}く^{江戸}の^{江戸}可^{江戸}不^{江戸}可^{江戸}も^{江戸}し^{江戸}に^{江戸}運^{江戸}善^{江戸}

却^{江戸}惡^{江戸}の^{江戸}小^{江戸}路^{江戸}り^{江戸}ん^{江戸}と^{江戸}爾^{江戸}ん^{江戸}

跋

三山雅集と名がく^{江戸}老^{江戸}家^{江戸}ら^{江戸}いて^{江戸}し^{江戸}れ^{江戸}ま^{江戸}し^{江戸}ら^{江戸}の^{江戸}山

乃^{江戸}あ^{江戸}ら^{江戸}た^{江戸}形^{江戸}と^{江戸}や^{江戸}ら^{江戸}を^{江戸}う^{江戸}と^{江戸}れ^{江戸}ま^{江戸}ら^{江戸}る^{江戸}こと^{江戸}あ^{江戸}く^{江戸}と

書^{江戸}三^{江戸}家^{江戸}一^{江戸}世^{江戸}一^{江戸}か^{江戸}り^{江戸}は^{江戸}れ^{江戸}ま^{江戸}し^{江戸}は^{江戸}く^{江戸}て^{江戸}は^{江戸}信^{江戸}の^{江戸}あ

信^{江戸}あ^{江戸}ら^{江戸}け^{江戸}い^{江戸}ま^{江戸}く^{江戸}た^{江戸}く^{江戸}あ^{江戸}ら^{江戸}ま^{江戸}ら^{江戸}る^{江戸}人^{江戸}の^{江戸}信^{江戸}と^{江戸}れ

い^{江戸}ま^{江戸}く^{江戸}か^{江戸}ら^{江戸}い^{江戸}ん^{江戸}と^{江戸}成^{江戸}れ^{江戸}ま^{江戸}ら^{江戸}る^{江戸}い^{江戸}ま^{江戸}の^{江戸}わ^{江戸}ら

乃^{江戸}名^{江戸}お^{江戸}れ^{江戸}や^{江戸}し^{江戸}ら^{江戸}か^{江戸}ら^{江戸}の^{江戸}成^{江戸}と^{江戸}ま^{江戸}ら^{江戸}る^{江戸}や^{江戸}何^{江戸}や^{江戸}と

く^{江戸}は^{江戸}あ^{江戸}ら^{江戸}た^{江戸}わ^{江戸}ら^{江戸}は^{江戸}早^{江戸}に^{江戸}吟^{江戸}り^{江戸}ま^{江戸}ら^{江戸}る^{江戸}人^{江戸}と

桑門何ぐしあか人のけくしとせきをうへるるたの
中よりえんせうはわぐりていりてあまのまじりてふ
とと海くくは向ふくしはるるくしはるる

淵元 お村氏

急れ山小舟の霧しからく門あけてと志布の後の

皇紀二七七〇年

宝永龍集庚寅年中冬下旬

発起

羽黒験者文殊院

呂笏

選述

荒沢野衲

東水

校正

銀塘幽谷

浮生

北越
海

